



◎道路起債の許可

緊縮政策、非募債主義に依る起債の難關を虞れられて、昭和四年度に於ては道路改修の如き折角の計畫を、其の儘に死藏せられた向も尠からぬことと思ふ。

政府も近ごろ失業救済事業に對しては緊縮政策の例外として、其の事業の財源たる起債も相當緩和せらるると云ふことであるから道路改修事業の如きは此の際、失業救済事業として其の方法宜しきを得るに於ては、危まれた起債の難關も容易に突破して、所期の目的を達成することが出来るのではなからうか。

起債の許可稟請に際し設計書の添付を要するものは、設

計當時の單價と時價とを一應比較して其の差の著しきものに付ては、豫め相當改訂を加ふるの必要があると思ふ。参考のため末尾に「昭和五年度地方豫算の實行に關する件(地方局長通牒)」を掲ぐる。

昭和五年度に於て四月から六月迄の間に於て許可せられた道路起債は、僅に左表の通りであるが現に出願詮議中に屬するものは、東京府、環狀放射線道路改修 一、三三五、〇〇〇圓、神奈川県、道路改修 一三九、〇〇〇圓、新潟縣、道路改修 三八一、〇〇〇圓 同四三一、〇〇〇圓、岩手縣、明治橋外七橋 八六四、五〇〇圓、茨城縣、國縣道改修 三〇〇、〇〇〇圓、靜岡縣、靜清國道改修 二八七、〇〇〇圓、岡山縣津山市、橋梁架換 一五、〇〇〇圓、岐阜縣下呂町、橋梁架換 三〇、〇〇〇圓、合計九件 三、九八二、五〇〇圓に及んでゐる。(徳田生)

昭和五年度自四月地方道路起債許可調(災害復舊ヲ除ク)

起債團體名	許可日	工事費總額	起債額	起債方法	償還方法	工事ノ概要
岐阜市	五、四、三〇	三、七、四、八	一、四〇、〇〇〇	大藏省其ノ他	七年度ヨリ	市道、橋本町線 延長一六〇間幅員五間 工事費 一九二、五六圓 外三路線
沖繩縣	五、四、一四	二八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	銀行其ノ他	九年度ヨリ	府縣道、那覇名護線 安富祖橋外三橋政策
栃木縣	五、四、一七	四〇、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	大藏省 銀行其ノ他	七年度ヨリ	府縣道、宇都宮水戸線 鬼怒川橋 延長三〇七間幅員四間 工費三二〇、〇〇〇圓 同太田原下館線 佐良土橋 延長一四〇間幅員三間 工費一六〇、〇〇〇圓
長崎縣 玉ノ浦村	五、五、一六	三三、〇〇〇	七、〇〇〇	逓信省其ノ他	六年度ヨリ 八ケ年賦	町村道改修 延長一七〇間幅員二間

參考

昭和五年度地方豫算ノ實行ニ關スル件

(昭和五年六月十二日内務省發地第五七號)
(北海道長官各府縣知事宛、内務省地方局長)

昭和五年度地方豫算ノ執行ニ方リテハ曩ニ訓令通牒ノ次第モ有之地方財政ノ堅實ヲ期スル爲十分御配慮相成居候儀トハ存候ヘ共現下經濟界ノ情勢ニ徴シ稅其ノ他ノ收入ニ於テ其ノ見積ニ付再查ヲ要スル廉モ可有之又物價ノ現況ニ鑑ミルトキハ經費ノ節省ニ付工夫按配ノ餘地モ可有之認メラレ候ニ就テハ此等ノ事情

篤ト御留意相成地方財政ノ經理上遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

◎ 道路損傷負擔金及受益者負擔金の決定

昭和五年度各府縣豫算に表れたる道路損傷負擔金並道路工事費受益者負擔金を府縣豫算に就て見ると左の通りである。(徳田生)

府縣名 道路損傷 道路工事費
負擔金 受益者負擔金

摘 要

東京府

舗裝 六、三〇〇

都市計畫法ニ依ルモノハ内務省令ニ依ル

京都府

市部 一六、三〇〇
郡部 一三、二〇〇

都市計畫法ニ依ルモノハ内務省令ニ依ル
道路法ニ依ルモノハ認可済

大阪府

九、三三〇

道路法ニ依ル認可済

神奈川縣

三〇、〇〇〇

同

兵庫縣

三、三三三

同

群馬縣

四、〇〇〇

同

静岡縣

五、〇〇〇

同

山形縣

五、〇〇〇

同

福井縣

一〇、〇〇〇

同

山口縣

一〇、〇〇〇

同

愛媛縣

一三、〇〇〇

同

栃木縣

一

道路法ニ依ル認可申請中

山梨縣

四、一〇五

同

長野縣

一七、五五五

同

廣島縣

五、〇〇〇

同

◎牧博士の新事業「高 等 土 木 工 學」の發刊

元内務技師工學博士牧彦七氏は、曩に眼を患ひ東京市土

本局長の職を去り専ら病氣の靜養に力められたが、病勢昂上して今や双眼を失はんとするに至つた、仍て氏の知遇を受けた有志が相圖つて、氏が我工學界に貢獻した其のことを記念すべく博士監修の下に「高 等 土 木 工 學」を發刊することゝ爲つた。

本書は高等専門學校程度を標準として廣く土木工學の全般に亙つて講述し、一卷四百頁内外の冊子を毎月一卷宛刊行し十八卷を以て完結する豫定で、各科一卷完結とするそである。執筆者は何れも博士と昵懇の間柄である東西兩帝國大學の教授を始め内務鐵道兩省の實務家其の他斯界の權威者を網羅し、眞に博士に同情して土木工學の學理及實際に就て新に執筆するそである。

我國現時の土木工學を進展せしめ土木事業の經濟的企業を計らなければならぬとは常に博士が唱導して已まなかつたところである。今博士の志を酌んで友人が執筆するに至つたのは世智辛き現世に美はしき人情の發露である。執筆者は斯界の重鎮であるから、博士所望の効果を收め得ること

とは必定である、吾人は事業の成功を祈つて已まない。(た)

◎土木試験所報告と藤井技師の努力

内務省土木試験所が絶えず道路の技術的試験を執行し、其の結果を發表しつゝあることは吾人の頗る満足してゐる所であるが、這般藤井眞透氏が、路面舗装の運輸經濟に及ぼす影響に就て試験の結果を發表された。

道路改良の必要が力説され、夫れを實行することに依つて國民の經濟生活に利益あることは何人も口にする所であるが、然らば道路改良に投ずる費用に對して幾何の利益を齎すかと言ふ、數學的の説明に至つては例を歐米の夫れに比較して算定さるか、又は抽象的の事由を列記するのが通例であつた、殊に自動車が発達して道路價値の算定を主として自動車の利用に求めなければならぬ今日に於ては、せめて道路改良に依りて自動車の受くる利益だけでも知り度いのであつたが、氏は乗用自動車の燃料消費量と路面抵抗に關する試験の結果を發表し、今回は鐵輪帶に關する夫れ

の試験の結果を發表し、漸次その他の車輛に迄及ぶようである。

此結果が全部發表さるゝことに依つて、我國道路政策乃至は道路經濟問題の解決に資する所頗る多大であらう、各種試験所の報告が常に翻譯的であるか又は夫れを補修して得意がつてゐるに反し、我が土木試験所が我國の實際に即した試験を發表し得たことは、藤井君の努力の賜と言はねばならぬ、研究心の旺盛な氏が此試験を續行しゐることは疑はないが一日も早く全部の試験を完了せむことを望んで已まないと同時に、近時勤ともすれば財政緊縮の爲に試験所を廢止し、又は之に關する經費を削減せむとする政治家が、以上述べたやうな試験所の齎す效果に鑑へ少しは反省して貰ひたい。(た)

◎全國道路會議の開催

毎年一回は必ず内務省に招集せらるゝ土木主任官會議は本年度に於ては財政緊縮の爲に開催しないことゝ爲つた、

然るに本會に於ては本年度の新事業として地方幹事の職を煩してゐる土木主任官諸氏を招待するの外、道路主事の諸氏を招待して道路行政の研究に力め、又一面全國各都市の土木關係者を招待して都市道路の改良を策することゝ爲つてゐたので、一層此際等々の三會議を合同して全國道路會議を開催することに決定した、同會議は三部に分ち、其一部會は道路行政に關し其二部會は街路に關し其三部會は地方道路に關し必要な事項を調査審議する筈であつて、多分九月上旬開催する見込である。

◎理事會の開催

去る二十日午後五時より丸ノ内日本俱樂部に於て本會理事會を開き水野、内田正副會長を始め、橋本、中川、長岡、牧、寛の各理事、三邊常務理事その他各幹事出席左記二件を附議し田中幹事より現下の失業状態及政府の執りつゝある救濟事業の内容竝自動交通網の實現と道路交通との關係に付詳細説明し、各理事意見交換の上本會より夫々別記建

議書を提出することに決定し之が實行委員として會長より山田、橋本兩理事を指名し近く兩氏は關係大臣に會見の上其の實現を期することゝなつた。「尙失業救濟トシテノ道路改良事業促進ノ件」に關しては各地方長官に對し別記ノ議書を提出したることを紹介し、併せて之が達成に力を致され度旨建議することに決定した。(徳田生)

建議書

一、失業救濟トシテノ道路改良事業促進ノ件
(内閣總理大臣、
 内務大臣、大藏大臣宛)

近時經濟界ノ不況ニ伴フテ失業者傑出シ職ヲ得ムトスルモ能ハサルモノ實ニ數十萬人ノ多キニ達シ之カ適當ノ對策ヲ講スルハ重大ナル社會問題トシテ刻下緊要ノ時務タリ政府ハ夙ニ之カ解決ニ努メツツアリト雖尙未タ十分ニ其ノ效果ヲ舉クル能ハサルハ頗ル遺憾ナリトス
 想フニ是等失業ノ因テ生スヘキ原因ヲ究メテ之カ免除ヲ圖ルノ必要ナルハ論ヲ俟タサル所ナリト雖失業者ノ日ヲ遂フテ増加スル現狀ニ在リテハ應急ノ對策ヲ講シテ授職ノ途ヲ開クハ寔ニ焦眉ノ急務タリトス蓋シ失業者授職ノ方途タル固ヨリ多多アルヘシト雖國又ハ公共團體ニ於テ各種企業ヲ計畫シ以テ

一、自動車交通網ニ關スル件（鐵道大臣宛）

建議書

交通能率ヲ増進シ交通ノ經濟的經營ヲ策スルカ爲各種交通機關ヲ統制シテ其ノ機能ヲ國民生活ニ利用スルノ必要ナルハ言ヲ俟タス曩ニ國有鐵道ニ於テ自動車運輸業ヲ經營スルカ爲自動車交通網ヲ確定セラレタルカ如キ寔ニ機宜ニ適シタルノ措置ニシテ本會ノ深ク満足スル所ナリ

然ルニ自動車運輸ニ利用セラレ、道路ノ現狀ハ極メテ劣惡ニシテ近代交通ノ要求スル構造ヲ有スルモノ甚ダ尠ク歐米各國ニ於ケル道路ノ現狀ニ比シテ其ノ霄壤雲ナラサルハ、深ク遺憾トスル所ナリ畢竟此ノ如キ現狀ヲ見ルニ至リシハ從來道路施設ヲ輕視閉却シタルニ因ルモノニシテ今ニ於テ之ヲ改ムルニ非サレハ自動車ノ機能ノ利用スル能ハサルヤ言ヲ俟タス此ノ秋ニ方リ自動車交通網ノ樹立セラレタルハ喜フヘキコトニ屬スト雖而カモ之カ事業執行ノ爲ニハ道路ノ改良ニ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ交通政策ノ大局ヨリシテ鐵道經濟ニ於テ卒先其費額ヲ支辨セラレ以テ道路交通ヲ助成スルト共ニ右事業ヲ促進セラルヘク刻下急迫セル失業ノ救済モ是等事業ノ執

就職ノ方途ヲ講スルヲ捷徑トシ且其ノ企業ハ各地ニ散在シ一般勞働者ヲ使役シ得ルモノニシテ而カモ其ノ事業カ生産的ナルコトヲ要ス道路改良事業ノ如キハ此ノ見地ニ於テ右要件ヲ具備スルモノト謂フヘク歐米各國亦失業對策トシテ此ノ種事業ノ實行ニ依リ其ノ成果ヲ收メタルカ如キ決シテ故ナキニ非サルナリ

繼テ我國道路ノ現狀ヲ觀ルニ近代交通ノ要求ニ應スル構造ヲ有スルモノ極メテ尠ク爲ニ自動車ノ機能ヲ舉グル能ハスシテ國民經濟上ニ蒙ル損失擧ケテ數フヘカラサルノ實狀ニ在リ從來幾度カ之カ改良事業ノ計畫サレタルモノアリシト雖財政緊縮ノ爲ニ未ダ其ノ實現ヲ觀ル能ハサルハ頗ル遺憾トスル所ナルヲ以テ今日失業救済對策トシテ之カ事業ヲ起興セシムルハ之ニ依テ失業者ニ職ヲ與ヘ我カ産業ノ進展ニ寄與スル一舉兩得ノ方策タルヲ疑ハス

仍テ政府ハ從來ノ緊縮方針ヲ緩和シ道路事業ノ爲ニハ起債ヲ許可スルト同時ニ失業救済ノ爲ニスル國庫補助ノ財源ヲ道路改良費ニ充當シテ補助政策ヲ速ニ實行シ大ニ道路ノ改良ヲ獎勵シテ社會問題ノ解決ニ力メラレムコトヲ切望ス

茲ニ本會理事會ノ議ヲ及建議候也

行ニ依リテ解決セラル、所尠少ナラスト認ムルヲ以テ速ニ右
計畫ヲ實行セラレムコトヲ切望ス

茲ニ本會理事會ノ議ヲ經及建議候也

年月日 會長

◎内田副會長海外視察

本會副會長内田嘉吉氏は、産業視察のため六月三十日神
戸解纜のプリズベン丸にて出發マニラを経て七月二十二日
シドニーに著、夫れより濠洲、大洋州、印度、馬來半島を
視察して十一月十三日頃神戸に歸著の豫定、途中各地に於
ける道路の状態をも視察せらるると云ふことであるから歸
朝の上は、本會の爲に寄與せらるる材料も少からぬこと
思ふ。

◎通常會員の増加

茨城縣支部の紹介により左記諸氏が入會された

水戸市上市柵町 園田重次

多賀郡日立町

日高鑛山事務所

水戸市上市泉町

海東惣一郎

水戸市上市天王町

逢澤正一

◎東京地下鐵道工事の進捗

我國に於ける地下鐵道の嚆矢である東京地下鐵道會社は
曩に淺草萬世橋間を開通せしめ、今は萬世橋三越前間の工
事に著手してゐるが、其の工事の施工方法や工事完成後に
於ける經營の状態乃至は夫れに依る既存交通機關の影響等
に就ては、斯界關係者の重視するところであつた、工事の
爲に路面電車が陥落するやら附近住家が倒壊するやらの一
部的非難を受けたが、兎も角懸念された難關を突破して今
日に至つた、之に關する技術の應用も斯界に範を示したも
のが尠くない、言はゞ技術的に危まれた事柄も其の懸念を
一掃した。其の營業上の成績もスピード時代に恰合して相
當の利益を收めてゐる、唯だ影響を蒙つたものは市の路面
電車であつて、地下鐵道の進捗に伴つて是等既存交通機關

の受くる影響に對する對策を如何にすべきやの問題を、我が交通界に研究の對照物として提議してゐる。

今や失業者が蒸出して救済の聲が高い折柄のとき、社會政策審議會の決定に基いた勢であらうか、救済事業の一方法として地下鐵道促進の案が中央政府の問題と爲つて不日實行方法が決定さるゝらしいので、同社副社長の早川徳次氏などは躍起になつて運動してゐる、失業救済の手段としては等の事業を進めても、果たして失業者授職の効果を擧ぐるかは筆者等の頗る疑問とする所であるが、帝都眼抜き場所である日本橋乃至銀座通りの地下に鐵道を敷設する難事業を是に依つて幾分にも促進するの効果はあるに違ひない早く品川迄を開通せしめて行き詰つた路面交通を打破したいものだ。(た)

雜 詠

好 日 庵

下 雨 の 畦 を 馬 引 き 歸 る か な
松 一 木 残 し て 拓 き 陽 炎 へ る
夕 月 の 春 を 灯 せ し 野 守 か な
山 あ ひ の 小 田 打 ち 休 む 辛 馬 か な
簞 ふ れ て 尙 も 散 る 緋 の さ つ き 哉
薪 積 ん で 道 せ ば め あり 桐 の 花
手 車 に 子 を れ か せ お る 田 打 か な
醉 ふ て 殘 春 を 送 れ ば 河 鹿 鳴 く
木 の 葉 す れ に 寄 り 行 く 馬 や 藤 の 花
蛇 沼 氏 の 開 墾
高 原 を 拓 く 年 あり 風 薫 る